

ご冥福をお祈りします

森山 新

佐々貴先生が逝かれた後、佐々貴ゼミから10名を越える学生がうちのゼミに引っ越して来た。佐々貴先生と私とは、分野的には非常に似たものでありながら、生前には一度も合同ゼミをやることがなかった。このように元佐々貴ゼミの学生と、うちのゼミの学生とがともにゼミを行う中で、改めて佐々貴先生が論文の書き方、研究の方法、レビューの重要性など、研究者養成のための土台作りにご尽力されていたかということを痛感する毎日である。

佐々貴先生がいらした頃は佐々貴先生が第二言語習得研究やその方法論についてはお任せ状態であったが、佐々貴先生亡き後、これからは私が全部とは言わないまでも、その一部でも埋め合わせて行かなければならない。

佐々貴先生と初めて会ったのは、2000年12月にお茶大で行われた第二言語習得研究会の第11回大会であった。その時、オーストラリアからは佐々貴先生が、韓国からは私が、そしてもう一人アメリカからは白井先生がいらして、発表を行った。

第二言語習得研究会はそれまで、東はお茶大で、西は京都外国語大学で行われていた。お茶大で行った第11回大会は初めて全国大会として行われた年だ。この歴史が示すように、日本の第二言語習得研究はお茶大が先駆的に開拓してきたと言っていい。

しかし今や長友先生が故郷宮崎に帰られ、佐々貴先生も逝かれてしまった。日本における第二言語習得研究の拠点を誇ってきた本学の歴史と伝統が今、ずっしりと重くのしかかっている。個人的にももっともっと多くのことを学んでおくべきだったと思う。

ご冥福を心からお祈りいたします。

もりやま しん／お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科